佐原の町並みかわら版

第　３３　号

平成１４年８月

発行　小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会

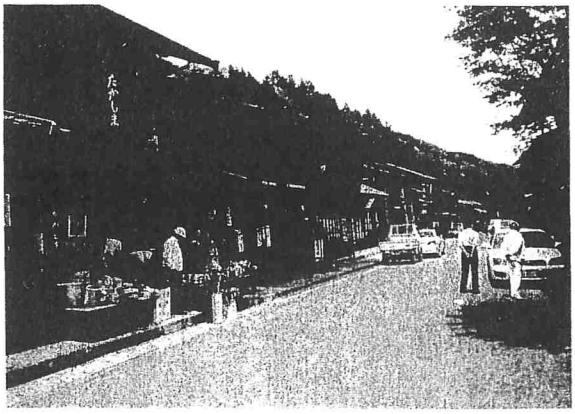
お問い合わせ
三菱館　0478(54)7766

第24回全国伝統的建造物群保存地区協議会
木曽郡楢川村を訪ねて

5月15～17日

去る5月15～17日の3日間、長野県楢川村で、「第24回全国伝統的建造物群保存地区協議会」の全国大会が開催されました。

佐原からは、小野川と佐原の町並みを考える会加瀬代表世話人、佐藤事務局長、それに町並みボランティア代表の吉田氏の3名が出席しました。

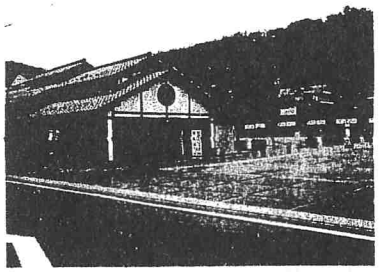


5月15日、新緑の木曽路くらしの工芸館に到着したのは10時だった。会場と思われる場所には駐車場の看板こそあれ、会場の案内はなにもなかった。ゆったりとした場所に木曽の大木を惜しげもなく使った建物は千葉大福川教授の設計であった。

住民意見交換会は文化庁建造物課主任調査官の江面嗣人氏から伝建制度を理解し、自主的な町づくりへの発展を望むとの話から始まった。各地域の実情や見所を発表し、佐原市も「会のこれまでと『町並みかわら版』」との題目で話をしました。

午後からは、会場が役場脇に移り、パネルディスカッション・情報交換会を行いました。富山県高岡市・妻籠宿・高山市と顔見知りの方々と久しくお話ししたところ、経済の停滞による影響は住民意識まで低下させているとの声が大きかった。NHK「さくら」の撮影地高山市さんも「確かに入り込み客数は多いが、経済効果までは期待できない」との話でした。

翌日は奈良井宿を訪ね、5年ほど前は「観光は一切考えていない」と話していましたが、喫茶店・食堂・団子と土産物・漆器店と増えておりました。一軒だけあったスーパーに入ると、少人数世帯向けか、きゅうり2～3本・トマト2個などが小さなパックになっており、レジ前のよい場所に蜂の子の缶詰めが特価で販売されてました。30代前半の店主は「私の年代はみんな名古屋・東京に行き、残ったのは私だけ、老夫婦だけの所帯がほとんどだ」と語り、木工製材や漆器の仕事も減ってしまい40代・50代の人も村を離れていくと聞きました。過疎の中での重伝建は、それなりに店舗も増え、女性の方々が忙しく働いておりました。



我々の今後の活動、佐原の今後等を思う時、この三日間は、大変有意義だったと思います。

平成14年度
定期総会開催
＝事務局長設置承認＝

5月22日、割烹宮定に於いて、平成14年度「小野川と佐原の町並みを考える会」総会が開催されました。

総会では、昨年度の事業・決算報告や、本年度の事業計画・予算案等が慎重に審議され原案どおり承認されました。

また、対外交渉等の増加に伴い、今年度から役員に事務局長を置く事の会則の一部変更も承認されました。

総会後の懇親会では、鈴木市長、谷田川県議を始め多数のご来賓をお招きして、今後の会のあり方等ご助言を頂きながら、和気あいあいの中に無事終了いたしました。

平成14年度小野川と佐原の町並みを考える会
委員会活動方針

〈総務委員会〉

観光客等の来訪がかなり多くなり伝建地区、景観地区の今後の対策や対応いかんによって佐原の活性化が変ってまいります。

今一番やらなければ成らない事は地域住民の特に商人がお互いに町の方針を良く把握していく事が不可欠と存じます。

○　会員増強（伝建地区の全ての商人が最優先の入会お願い）

○　秋期に先進地視察研修旅行計画

委　員　長　井上源太郎
副委員長　佐藤　清
副委員長　本宮　丈男
会　計　並木　宏之
委　員　宮永　孝子　山崎　和夫
君和田俊子　北田　明子

〈三菱館運営委員会〉

三菱館内の水道施設は衛生関係からも重要な設備と考えます。

○　衛生問題から水道設備の不可能を可能にする活動。

重伝建指定後の町の変遷と共に地域住民や観光客の佐原に対する印象や感じ方、考え方が変わりつつ有ります。

そこで

○　アンケート調査の実施

○　三菱館店内レイアウトのアレンジと大掃除、ハト対策

委　員　長　久保木勝夫
副委員長　越川　悦子
委　員　菅井　喜平　北村　哲朗
坂本　晟　越川　典子
橋本　隆夫　倉持　力蔵
萩原　米長　酒井　トキ
監　査　並木潤一郎　鈴木　洋一

〈町づくり委員会〉

町の活性化と同時に、伝建地区内にも今後新しい方々が商売としてお店を構えます。その事自体は歓迎ですが条例を無視した建造物や店づくりは将来の展望では危険性が大であります。

○　地域住民や参入者に対して初心に返り保存、町づくりとは何かを「講演、町並説明書、町づくりの説明会、その他」の活動を通して模索する。

○　小野川川底・護岸清掃

○　行政と会の綿密な連絡を取り、今後の建造物や景観問題を今まで以上に会員が把握する。

委　員　長　高橋　賢一
副委員長　円城寺達雄
副委員長　伊能　久敬
委　員　伊能　敏雄　宮澤　良吉
荻原　孝司　並木恵美子
山内　章廣　篠塚　友孝
平塚　丈泰　岩立　守
谷田部昇一　岡澤　廣典
小江戸さわら会

〈広報委員会〉

最近の佐原、特に重伝建地区はお客の来訪によって10年前とは比べものに成らない程全てが変わりつつ有ります。当然会の活動も多忙で活発化しており、今後広く佐原の出来事や活動実施目的等を巾広く広報活動によって会員以外の方々にもお伝え致します。

○　広報「佐原の町並みかわら版」の発行　年3回位

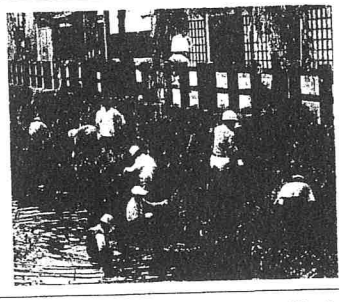
委　員　長　林　正裕
副委員長　高橋　正夫
委　員　円城寺静子　田村美都里

小野川清掃を終えて

―7/24 約40名が参加―

7月24日、恒例の小野川清掃が行われました。この清掃は、本会が毎年計画して行っている事業で、香取郡建設業組合佐原支部やＪＣ（佐原青年会議所）、市役所の皆様にもご協力を得て実施しております。今年も舟やダンプカーを携えて、約40名の方々が参加して下さいました。

朝の8時半から12時まで3時間半、川底のゴミ拾いや護岸の除草作業に汗を流しました。前日と違い、小野川の水位が上昇していたことから、忠敬橋より上流部分を腰まで水に浸かりながらのゴミ拾いとなりました。ゴム長のない人は、共栄橋までの護岸の除草作業を併せて行い、すっかりきれいになって観光地らしくなった景色に、疲れも吹っ飛ぶ思いでした。



この川清掃は、平成7年から続けてきました。7年前に初めて小野川に入ったときは、ヘドロの多さや悪臭に驚愕しましたが、川は年々きれいになり、手に付いたドロ臭さもさほど気にならなくなるほどに回復しました。今年は、タンケやタニシも見られ、水質が随分良くなったことを感じました。とは言っても、まだまだ観光客から「川がきれいだといいね」の意見を聞きます。皆んなが協力して昔の小野川に少しでも近づき、自慢のできる川になることを願っています。

来年もこの清掃作業は続けます。多くの方々がこの清掃に参加して頂けることを期待しています。ご協力ありがとうございました。

伝統的建造物等説明板設置について

―説明板設置特別委員会―

重要伝統的建造物群と小野川沿いの町並みの風情は、佐原市の観光事業の一つとして注目を集めており、お陰様で町並みを訪れる観光客の数も日増しに多くなってきております。私達は「もう一度訪れていただける町並み」に育て築くよう、観光で訪れる人々に満足頂けるサービスは何かを常に考えてきました。

小江戸佐原にふさわしい歴史の重みを感じさせる町並み、その通りを行き交う人々と、そこに暮らす人々との穏やかな表情で語り合っております。趣きのある建物を見上げている老夫婦「この建物はいつ頃建てられたのかね……」「昔は何をしていたのでしょうかね……」そんな声を多く耳にするようになり、それでは案内板を設置してはどうかという事で該当の皆様方にアンケートのご協力を頂き、一部に設置の運びとなりました。

御当家が先祖代々引き継ぎ、大切に保存されてきた貴重な文化財を仲介に、説明板が観光客の方々と地元の方のより一層の交流の輪が広がる機会になればと願っております。この趣旨にご理解頂き、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

委員長　高橋正夫
副委員長　久保木秀夫
佐藤健太良

重要伝統的建造物群
小野川と佐原の町並みを考える会

まちづくり講演会

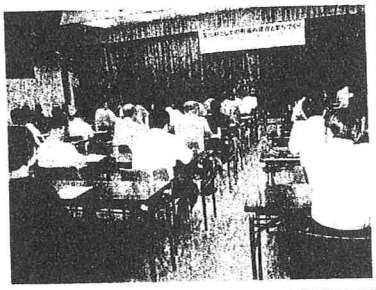
「まちづくり」は「人づくり」

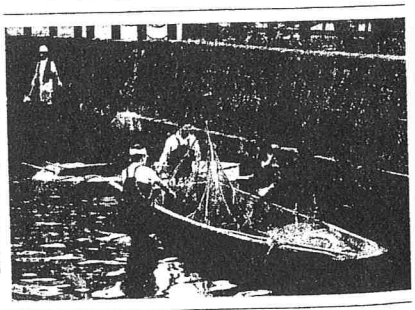
講師　文化庁建造物課主任文化財調査官　江面嗣人氏

演題　文化財としての町並み保存とまちづくり

7月30日、佐原商工会議所にて右掲の内容で講演会が開催されました。会場にあふれる程の参加者の内に開演となり、講師の意義有るお話に楽しさの中に真剣な面もちで最後まで聞き入っておりました。

関東で最初（全国61地区）に「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を頂いた後、日増しに多くのお客様がご来訪下さる様に成りました。価値有る町並みを散策する観光目的と受け止めて、今後更なる保存・町づくりを市民、行政、専門家の協力のもとに活動し、生きた町づくりによって中心市街地を広く回遊性に富んだ活性化を目標と致したく思います。





しかし、これからが町づくりの大切な時期で方策を誤れば元に戻る可能性が見られます。今一度原点に戻り保存・町づくり・そして文化財とはどの様な意味なのかをしっかりと把握してから検討実施する事が大切と思いご講演をお願い致しました。

講演要旨

文化財保護法と保存そして町づくりとは何か。について明解なご説明からスタートし文化財と保存、町づくりは根本から異なりそれぞれの目的が有る。

「文化財とはこの世に二つと無い又二度と作る事の出来ない価値有る本物で有る。」「保存目的は一人一人の価値観を保持するもの」「町づくりは地域住民等による個性有る町づくりが基本」

つまり、貴重な物件を文化財指定にし、その町だけしかない全ての物を街の同意のもとに保存し、その上で佐原「らしさ」を大切に醸し出した「本物指向」の町づくりを行えばこの先日本の貴重な価値有る町並みとして存続出来ますし、未来の子孫に残す事ができます。又活性化は必ず後からついて来ます。

○　私たちは町並みを何を何の為に残すのか、それは明るく快適で安心して暮せる将来性に富んだ町づくりの展望でその為の真の町並み活用です。

○　保存意識は佐原の住民として、日本人としての意識と人間性の向上の目的

○　町づくりは人づくりが基本

平成14年度　小野川と佐原の町並みを考える会役員

代表　加瀬順一郎
副代表　大高敏男（総務　三菱館）
副代表　久保木秀夫（町づくり　広報）
会計　並木宏之
事務局長　佐藤健太良
総務委員長　井上源太郎
三菱館委員長　久保木勝夫
町づくり委員長　高橋賢一
広報委員長　林正裕
総務副委員長　佐藤清
総務副委員長　本宮丈男
三菱館副委員長　越川悦子
町づくり副委員長　円城寺達雄
町づくり副委員長　伊能久敬
広報副委員長　高橋正夫
監査　並木潤一郎
監査　鈴木洋一
相談役　清宮利右衛門
相談役　堀井健男
顧問　菅井国郎

過日行ないました町並み保存署名運動に対し、多数の皆様方のご協力を頂き誠にありがとうございました。今後の活動に役立たせて頂きます。